

みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



おみおくりの作法

© Exponential (Still Life) Limited 2012

第37回上映会

2017年 **9月18日** [月・祝] 13:30~16:00 (開場13:00)

場所 **国立民族学博物館 講堂** **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 **450名** 入場整理券を **11:00** から 本館2階 講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 **国立民族学博物館**

STILL LIFE

2013年 / イギリス・イタリア / 91分 / 英語 / 日本語字幕付き

監督・脚本・製作 / ウベルト・パゾリーニ

主演 / エディ・マーサン ジョアンヌ・フロガット

司会 **鈴木 紀** (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 **菅瀬晶子** (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究所・准教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 企画課博物館事業係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



みんなくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。9年目の今期からは〈人類の未来〉をキーワードに、映画上映を展開していきます。今回はイギリス・イタリア合作「おみおくりの作法」を上映します。孤独死を遂げた人を、できる限りの誠意を尽くして“おみおくり”する仕事に臨んできた民生係のジョンの姿を通して、人間関係が希薄になりつつある現代社会の中で、さまざまな人生を歩んできた人びとの尊厳ある生と死について、日本のお彼岸の季節に考えたいと思います。

第37回上映会

2017年9月18日(月・祝) 13:30~16:00 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

おみおくりの作法 STILL LIFE

2013年/イギリス・イタリア/91分/英語/日本語字幕付き

監督・脚本・製作/ウベルト・パソリーニ

主演/エディ・マーサン ジョアンヌ・フロガット

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 菅瀬晶子 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部・准教授)

映画解説

ロンドン南部ケニントン地区の民生係を務める独身のジョンは、孤独死した人が遺した品々を頼りに親類縁者を探し出し、心づくしの弔辞とBGMによる葬儀で送り出してきたが、人員整理で職を失う。自宅アパートの真向かいに住むも、数週間前に亡くなるまで一面識もなかった酒浸りの男を最後の案件に、娘と思しき少女の写真が貼られたアルバムを携えた彼は、故人の足跡をたどる旅に出る。かつての恋人や戦友、ホームレス仲間らの想いに触れるうちに、平穏だが単調なジョン自身の生き方にも変化が芽生える。プロデューサーとしても活躍する監督が、ある新聞記事を糸口に取材を重ね、地域や家族のつながりが希薄になりつつある現代社会を背景に、ひとりきりで亡くなったひとを手厚く弔う公務員の奮闘を静謐なトーンで描写。やりきれない矛盾をばらむ現実世界の光と闇が投影された主人公の、思いがけない出逢いや発見に突き動かされ、恋の予感にときめく心模様を、英国の名脇役のエディ・マーサンが、内省的な繊細さで見事に表現する。誰にも死は不意に訪れるが、生の証はさまざまなかたちで息づき続けることをしじみと謳い、ヴェネツィア国際映画祭などで賞賛された佳篇だ。(映画評論家 服部香穂里)

「不寛容の時代」を越えてゆくための道しるべ

原題のStill Lifeとは、静物を意味する。実際、静謐な作品である。主人公のジョン・メイは、孤独死を遂げた市民の身元調査と葬儀の手配など、「死者を見送ること」を専門におこなう民生係の公務員であるが、無駄口はいっさいたたかず、自分の思いを口にするのもほとんどない。独り暮らしの彼のつましい生活は、まさしく静物画のようだ。

静謐な作品ではあるが、本作が描き出しているものは多い。現代イギリスの宗教的多様性、都会に生きる現代人の孤独、親子の断絶と家族の喪失。それらすべては、ジョンを理解しない上司が体現している、ひとりの人間を単なる数字やデータとしてしか扱わない現代社会の無味乾燥さ、ゆがみへと収斂されてゆく。戦争やテロのニュースが流れても、それを観るわれわれは、いつしか犠牲者の数の前で感受性を麻痺させてしまい、なぜ彼らが死んだのか、なぜそんなことになったのかという現実実感を持っていない。われわれはみな、魂のどこかが欠落しているのだ。

ポピュリズムが台頭し、先行き不透明な中で人びとが衝突する2010年代は、「不寛容の時代」と呼ぶことができるだろう。終始一貫、死者に対して分け隔てのない誠意を示す、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」を想起させるようなジョンの仕事ぶりは、不寛容とはまさに相対するものである。そこには、魂が欠落した「不寛容の時代」を越えてゆくための道しるべとすべき、普遍的な輝きがあるのではないだろうか。(菅瀬晶子)

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国立民族学博物館では2016年度より特別研究「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を開始しました。これは、現代文明の諸課題に対して解決志向型のアプローチをとる研究です。現代文明は物質的な豊かさと普遍的な価値観を広げましたが、同時に環境破壊や文化摩擦を生み出しています。民族学や文化人類学の立場からは、現代文明の矛盾はどのように現れるのか、そしてその解決策は何かを、地域社会や民族文化に視点を据えて考えることが重要です。みんなくワールドシネマのねらいは、この特別研究の問題意識を来館者の皆様と共有することにあります。世界の映画を通して、現代文明を問い直し、多面的な価値が共存する人類の未来を展望したいと思います。



© Exponential (Still Life) Limited 2012

次回作品 2017年11月5日(日)

火の山のマリア

IXCANUL/VOLCANO

2015年/グアテマラ・フランス/93分/カクチケル語・スペイン語

/日本語字幕付き

監督/ハイロフスタマンテ

出演/マリア・メルセデス・コロイ マリア・テロン



© LA CASA DE PRODUCCIÓN y TU VAS VOIR 2015

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420円/高校・大学生 250円/中学生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分

●バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」
「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。 ※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。 ※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。 ※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242
www.minpaku.ac.jp/

